

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	防災施設整備事業			事業コード	0027
所属コード	017000	課等名	危機管理防災課	係名	危機防災係
課長名	藤澤厚志	担当者名	松野 和彦	内線番号	3513
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要（旧総合計画体系における位置づけ）

総合計画 体系（旧）	施策の柱	安全な暮らし	コード	2
	施策	自然災害対策の推進	コード	1
	基本事業	防災体制の強化	コード	2
予算費目名 (H26)	一般会計 9 款 1 項 1 目 防災施設整備事業（001-05）			
特記事項 (H26)				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度		開始年度	平成 7 年度
根拠法令等 (H26)	盛岡市地域防災計画			

(2) 事務事業の概要

被災者及び避難者 1 万人を想定した備蓄品を整備する。

市民一人ひとりが災害に備えるため、危険個所や避難所の位置等情報、また、災害関係情報を掲載した防災マップ等を更新し、全戸配布する。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

備蓄品については、阪神淡路大震災を契機として、避難者及び被災者への毛布等の備蓄の必要性が求められ開始した。

防災マップについては、既存の防災マップは平成16年度に作成したものであり、旧盛岡市域しか記載されていないため、玉山区域も含んだマップデータを作成する必要がある。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

備蓄品については、予算確保が困難なため品目の充実は進んでいない。

防災マップについては、平成25年度に盛岡市全域のマップデータを作成し、玉山区版を区民に全戸配布した。旧盛岡市域の防災マップは、平成16年度に作成し、各戸に配布しているが、相当の年数を経過していることから、最新の防災マップに更新する必要がある。なお、現在、国による浸水想定区域の見直しが行われており、防災マップの更新は、この見直し時期に合せて行う必要がある。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・

(1) 対象（誰が、何が対象か）

市民及び備蓄品

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 見込み	26年度 実績
A 想定される避難者数	人	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
B アルファ米	食	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000

(3) 26年度に実施した主な活動・手順

避難所等に備蓄しているアルファ米について、賞味期限切れとなるものを更新した。

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 目標値	26年度 実績
A 想定される避難者数	人	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
B アルファ米の更新数	食	22,000	0	0	6000	6000

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

災害時に被災者が応急生活をするための必要最低限の食糧を備蓄する。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 目標値	26年度 実績
A 更新計画に対するアルファ米の充足率 ＝在庫数÷計画数	☐ 上げる ☐ 下げる ☒ 維持	%	100	100	100	100	100

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 計画	26年度 実績
事業費	①国	千円	2,722	27,992	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0	0
	④一般財源	千円	0	59,668	6,875	1,050	1,050
	⑤その他()	千円	21,229	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	23,951	87,660	6,875	1,050	1,050
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	200	300	120	40	40
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	800	1,200	480	160	160
計	トータルコスト A+B	千円	24,751	88,860	7,355	1,210	1,210
備考							

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

備蓄品の整備充実を進めることにより、被災者に対し毛布や食料を迅速に提供でき、防災体制の強化が図られることから整合している。

防災マップの配布により、居住地等の危険箇所や避難場所を事前に確認し、災害時における人的被害を小さくすることができる。

② 市の関与の妥当性

盛岡市地域防災計画の中に位置付けられており妥当である。

③ 対象の妥当性

市民に対する周知・支援を目的とするものであることから妥当である。

④ 廃止・休止の影響

市民に対し、精神的、肉体的に大きな負担をかけることになり、安全安心が保障されない。

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

備蓄品の品目及び数量の拡大をすることにより、多くの被災者の要望に迅速に対応できる。

防災マップの適時更新やわかりやすさを向上させることにより、的確に防災情報を知らせることができる。

(3) 公平性評価 (評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要)

盛岡市民全体を対象にしていることから公平である。

(4) 効率性評価

アルファ米には消費期限があり、想定される避難者数に応じた計画的な備蓄の確保が必要であり、これ以上の事務削減はできない。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 概要 (新しい総合計画体系における位置付け)

総合計画 体系 (新)	施策 (方針)	安全・安心な暮らしの確保	コード	8
	小施策 (推進項目)	地域防災力の強化	コード	8-2

(2) 改革改善の方向性

備蓄品 備蓄品目の拡大と保管場所の確保

防災マップ 最新のデータ入手、財源の検討

(3) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

備蓄品 予算の確保

防災マップ 庁内における事業採択の合意形成。予算確保

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

☐ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）

☒ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）

☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

アルファ米については、毎年度 6,000食ずつ更新していたが、東日本大震災の避難者対応で消費し、平成23年度に22,000食補充した。そのため平成24年度と25年度は更新不要となったが、平成26年度は、これまでどおり 6,000食更新した。

アルファ米以外の備蓄品については、品目や数量等を含め他都市の事例なども参考に、充実に向け取り組むこととしたい。

また、防災マップの作成・市民等への配布については、平成27年度中に国が浸水想定区域等の見直しをし、公表することとしており、市としてもこれを反映させながら早期のマップの作成と、市民等への周知を行っていく必要がある。